

蓼科山・入笠山行報告書

(山域) 八ヶ岳連峰 (蓼科山・入笠山)
(コース) 下記個別山行報告参照
(日時) 1月16日(土曜日)～1月17日(日曜日)
(天候) 下記個別山行報告参照
(参加者) CL:内堀(記録)・SL:狩野・岸野・井上・時田・田辺
(山行タイム) 下記個別山行報告参照

(蓼科山山行報告)

(日時) 1月16日(土)
(コース) 蓼科山登山口(女神茶屋前)～蓼科山～蓼科山登山口(女神茶屋前)
(天候) 晴れ
(山行タイム) 蓼科山登山口 9:40～幸徳平 11:25～蓼科山山頂 13:00～幸徳平 14:30～蓼科山登山口 16:00

今回はメンバー6名、車2台に分乗して目的地へ向かう。途中『中央道石川PA』にて朝食&合流待ちを行う。PA到着時はまだ暗く星が見えていたが、出発時には空が白んでいる中での出発となり、先週に引き続き本日も天気が良いようで山行への期待が高まる。また、中央道は混雑する様子もなく非常にスムーズだった。高速を降りたのちビーナスラインを通り目的地へ向かうが、道中昼食を購入するコンビニがないことに気づき、寄り道して『ピラタスロープウェイ山麓駅』でパンなどを購入し、改めて登山口へ向かう。女神茶屋がある『蓼科山登山口』に到着すると側の駐車場は20台近くの車で既に一杯だったため、空いていたもう片側にある駐車場に駐車して支度を行う。この時期であれば例年かなりの積雪を楽しむことができるはずで登山客もそこそこ多かったが、登山口まで車道に雪はなく、登山口周辺も少々の積雪がある程度、アイゼンは装着せずに出発する。

登りから30分くらいまでは笹が茂った道が続く、以降は比較的傾斜の強い斜面の登りとなるが、道はしっかりしており問題はない。ただ、道自体は全体を通して固く凍っており、登りとはいえアイゼン無しでは慎重に歩行する必要がある。また、下りはアイゼン必須を感じさせる道であった。しばらく進み途中アイゼン装着。山頂付近までは明るい樹林帯を進みあまり風を感じることもなく山頂へ到着、広く平坦だが大きい岩がゴロゴロ転がっている。頂上は風があり多少寒かったが、快晴で見晴らしもよく、特に八ヶ岳主脈を目の前に見ることができ素晴らしい登頂となった。休憩しつつ写真を撮り、景色を堪能したのち下りとなる。凍った道はアイゼン無しには歩行が困難だが、明るい樹林帯は氷がない箇所も多く、岩に擦れたアイゼンが軋む音を聞きながら歩行する。メンバー全員前爪がある爪が長いアイゼンのため皆苦労しながらの下山となる。このメンバーは下りは比較的早いはずだが実際のコースタイムから見ても苦労していることがわかる。それほど雪が少ない状態だった。

下山後は温泉へ向かう。当初『縄文の湯』へ向かうが、ちょっとしたトラブルもあり別の『河原温泉河原の湯』へ変更した。ここは入浴料が400円と安く地元の方々が利用しているような感じでこじんまりとしていたがいいお湯だった。風呂を出ると辺りは既に暗くなっていた。今夜の宿泊地は『白州道の駅』。ここは入り口に地元民も汲みに来る名水が湧いており旅行者も利用できる。また、隣接してスーパーがあり、何か入用であれば買い足しができ非常に便利な立地だった。道の駅は既に営業は終了していたため、屋根のあるスペースにテントを張り、早々に今夜の食事ほうれん草&ソーセージ炒めと、キムチ鍋の支度を行う。料理を始めつつお酒が入りだすころには、テント内も温まりリラックスしたムードになる。キムチ鍋は体が温まり、冬の食事には嬉しい。他愛無い話をつまみにビールに始まり日本酒やワインが空になるころには寝落ちするメンバーもでてきたためお開きとなる。



(入笠山山行報告)

(日時) 1月17日(日)

(コース) 入沢登山口～入笠湿原～入笠山～入笠湿原～入沢登山口

(天候) 曇りのち晴れ

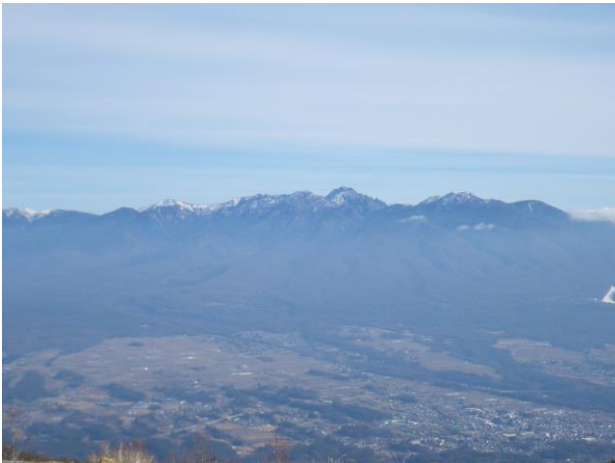
(山行タイム) 沢入登山口 8:25～入笠山山頂 10:20～沢入登山口 12:53

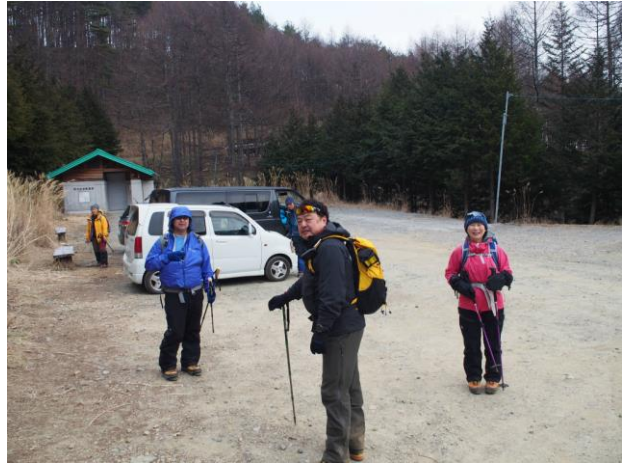
本日の行動時間は短いためかややのんびりした時間の起床となる。誰となく起きだしてシュラフをしまい、テント内にスペースを作り今朝の朝食サンドイッチとキムチ鍋の残りとおしるこを調理する。大半のメンバーは小食なので、昨日のキムチ鍋もそうだったが今朝はサンドイッチが余り、昼間の行動食とする。装備撤収して本日の目的地入笠山へと向かう。本日も快晴で、車内から南アルプスや八ヶ岳の山並みがきれいに眺めることができる。林道を登り入沢登山口に到着すると習志野ナンバーの車が1台だけ駐車していた。トイレがあるが冬季閉鎖だった。

支度を行い出発。積雪はない。道も昨日の蓼科山のように凍っているわけではなく登りやすい。整備された暗めの樹林帯の道をしばらく進み、開けたところが入笠湿原だった。木道があって整備された場所であったが、この季節なので何もない。夏はスズランの群生地として有名な。すぐ近くには営業していなかったが山彦荘があり、手前のベンチで一服する。ここのトイレも期間外は閉鎖している。山彦荘から先へ進むと開けた斜面があり、10センチほど雪が残っていた。雪が恋しかったのかここを進み、進みすぎてコースからそれてしまった。本来のコースへと戻り、暫くして山頂へ到着。開けた山頂は快晴の中360度の展望が待っていた。南中北アルプス、八ヶ岳、富士山とすべて見える素晴らしい眺望で写真撮影しつつ景色を楽しむ。山頂には他にも何組か登山客が山頂からの眺望を楽しんでいた。しばらくして下山開始、途中営業していたマナスル山荘(本館)へ寄り休憩する。各自飲み物を頼んだり食事を注文したりした。ちなみにここの食事はフルと半分があり、価格差はほぼないがフルは量がとても多い。特にカツカレーはカツが2枚盛となっている。

そんなことをつゆ知らず軽く食事するつもりで注文してしまったメンバーはフルの鍋焼きうどん、カツカレーを苦しみながら？食すこととなった。居心地の良い山荘でのんびりと休憩した後は、元来た道に戻り下山した。

下山後は『道の駅信州蔦木宿つたの湯』へ。ここの風呂は入浴料 600 円で、風呂はいくつかにわかれており、露天風呂やサウナも楽しめる。清潔で気持ちの良い風呂を堪能した後、帰路に就く。





以上